

授業科目(ナンバリング)	精神保健福祉援助実習指導 I (DB318)			担当教員	齊藤晋治・星野秀治・丸山貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>この科目では、ディプロマポリシーに照らし、体験学習、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、人間の多様性について理解し、真の共生社会を実現するための活動ができるようになることをねらいとする。さらに、精神保健福祉援助実習の意義を考え、その準備性を高めることを目的とする。授業のねらいは次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者のおかれている現状を理解し、生活の実態や生活上の課題を理解する。</li> <li>・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等を理解し、各自にとっての精神保健福祉援助実習のねらいを明らかにする。</li> <li>・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</li> </ul>							①⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を考え、対応できる能力と自己に求められる課題を類別できる。				課題レポート	15%	
情報収集、分析力	書籍やインターネットを使って、精神保健医療福祉の現状についてグループで調べ、まとめ、わかりやすく発表することができる。				グループ発表	10%	
コミュニケーション力	実習計画書を作成する意義を説明できる。 実習の四者関係を説明できる。				グループディスカッション グループディスカッション	5% 10%	
協働・課題解決力	個人またはグループでの活動に参加できる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力	市や県等の精神保健福祉活動に参加し、現場の専門職や当事者等と積極的に交流することができる。				グループディスカッション 課題レポート	30% 20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業での活動やグループワーク・ディスカッションへの参加 (55%)、グループワークでの発表 (10%) 及び活動後の各自の課題レポート (35%) を評価対象とする。課題レポートは、現場での体験学習後のレポート、授業での学びをレポートにまとめるもの、コースの終了後にコース全体の学びのまとめとしてのレポートがある。詳細は授業内及びポートフォリオを通して提示する。レポートや課題へのフィードバックは授業内にて行う。</p>							
授業の概要							
<p>グループワーク、調べ学習、体験学習等を通して、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士に求められるもの、そのために実習で学ぶべきこと及び必要となる事前学習について明らかになるよう、実習の準備に取り組む。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：日本精神保健福祉士養成校協会編(2015)『新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉援助実習指導・実習 (第2版)』中央法規出版。</p> <p>参考書：相川章子 (2009)『かかわりの途上で ころの伴走者、PSW が綴る 19 のショートストーリー』へるす出版。</p> <p>指定図書：日本精神保健福祉士養成校協会編(2015)『精神保健福祉援助実習指導・実習 (第2版)』中央法規出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。 更には自発的な知識習得に努め、精神保健分野の行事や映画、ニュースなどに関心を持つこと等を期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価等の確認を行う（全教員）	スケジュールを確認する
2	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(1)	実習機関(精神科医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関、その他)と援助方法を理解する(齊藤)	復) 実習機関の役割、援助方法をグループでまとめる
3	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(2)	長崎県内の精神保健医療福祉機関を理解する(齊藤)	復) 長崎県内の精神保健医療福祉機関等を調べグループでまとめる
4	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(3)	精神科医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関等と長崎県の状況についてのグループの調べ学習の成果を発表する。現状と課題を考える(齊藤)	復) 精神保健医療福祉の現状に関心をもち、自分の考えをレポートにまとめる
5	精神保健福祉援助実習の理解(1)	「精神保健福祉援助実習指導ⅡB」履修学生に、実習準備、実習での体験と学び、実習後の学習を学ぶ(齊藤)	予) 今後の学習に向けて、今年度実習生の経験に学びたいことを整理する
6	精神保健福祉援助実習の理解(2)	精神保健福祉援助実習の実習報告会に参加し、利用者と支援者の現状を考える(星野)	復) 精神保健福祉の利用者の現状に関心をもち、考えをレポートにまとめる
7	精神保健福祉援助実習の理解(3)	実習報告会への参加を振り返り、実習の意義、目的、実習の四者関係、三層構造、実習における基本姿勢についてディスカッションを通して学ぶ(星野)	復) 教科書第1章、第2章を読み、精神保健医療福祉の現状を整理する
8	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(4)	地域の精神保健福祉活動に参加し(または実践について話を伺い)、精神保健医療福祉の現場を学ぶ(星野)	復) 地域の精神保健福祉活動に関心をもち、自分の考えをレポートにまとめる
9	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(5)	活動への参加をもとに、地域の精神保健医療福祉の現状、精神保健福祉士、他専門職の役割と機能をディスカッションを通して考える(星野)	復) 精神保健福祉援助実習で学びたいこととして整理する
10	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(6)	当事者の方から体験を伺う。当事者会の活動に参加し、精神保健福祉の現状を考える(星野)	復) 当事者活動に関心をもち、自分の考えをレポートにまとめる
11	精神保健医療福祉の現状に関する基本的な理解(7)	活動への参加をもとに、精神障害を持って生活することの現状、当事者会活動、精神保健福祉士の役割と機能をディスカッションを通して考える(丸山)	予) 精神保健福祉援助実習で学びたいこと、実習の目的を整理する
12	精神保健福祉援助実習の理解(4)	相談援助実習の振り返りから、精神保健福祉援助実習の意義、目的をディスカッションを通して考える(丸山)	予) 相談援助実習を振り返り、達成できたこと、残された課題をまとめる
13	実習の準備(1)	実習機関の見学に向けて、事前調べ学習を行い、まとめる。個人情報保護、守秘義務について確認する(丸山)	復) 見学の目的、学びたいことを整理する
14	実習の準備(2)	実習機関を見学する(全教員)	復) 見学を通して感じたこと、考えたことをレポートにまとめる
15	まとめ	全体を振り返り、実習の意義、目的、自己の現状と次年度までにすべき準備をディスカッションを通して考える(丸山)	復) 成果をまとめ、実習計画書、個人プロフィール作成等の準備をする